

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100445		
法人名	有限会社 風		
事業所名	グループホーム「シュアー」		
所在地	岐阜県多治見市東栄町1-35-1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvCd=2171100445-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成27年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境、広い庭を利用して、四季の植物を育て、ゆったり過ごせる生活空間作りに努めています。今年度は災害時必要物品の総点検と食事作り体験に力を入れ、集中的に行っています。衣食住に分け、ホーム外で過ごす時の課題を知り、一つずつ解決に向けて取り組んでいます。運営推進会議面会時に、ご家族様より、相続や成年後見制度についてのご相談がありましたので、専門家をお招きして講演会を実施しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

率先垂範、法人代表が先頭に立って管理者はじめ職員集団を牽引している。利用者の最善の利益に配慮することは当然であるが、加えて職員の処遇や福利厚生面にも腐心している。「職員が少しでも長く、楽しく働いて欲しい」が、法人代表の思いである。
現場支援を気にせず休憩が取れるようにと、職員用に別棟の休憩室を建てた。職員の腰痛予防(負担軽減)にと、2基の利用者移動リフトを導入し、車いすへの移乗や排泄介助にフル稼働の状況である。この移動リフトの導入により、利用者にも安全・安心のメリットが生まれている。
地域との交流・連携も図られており、ホームの防災訓練には近所の住人の参加がある。職員研修の際には地域にも案内を出し、家族を含めて10名ほどの地域参加者が職員と共に学んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識して利用者さんに対応してもらえよう、ホーム内、スタッフ休憩室、玄関等に理念を掲げています。	理念の一節である「ゆっくり たのしく いっしょに」が、ホールに掲示されている。この理念は、法人代表が実の親を看取った際の自らの介護の至らなさを悔い、戒めの言葉として定めたものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節行事で作ったお料理を近所の方にふるまったり、お裾分けしています。また、月1回入浴と昼食にお招きしています。講演会の案内を配布し、参加していただいています。	現在のホームは、7年前にこの地に新築移転したものであるが、理解ある地域住民に恵まれ、信頼・協力関係が築かれている。職員研修を地域にも公開し、10名ほどの家族や地域住民が職員と共に学んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネージャーさんを通じ、地域で見守りの必要な方の情報を伺い、声掛け、訪問等を行い、関係をつないでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	相続、成年後見制度への関心が高く、ご家族様より質問があったため、公証人の方をお招きして講演会を実施しました。	看取り対応の利用者がいたり、職員の退職があったりした時に運営推進会議が流会になることがあり、年間6回の規定回数の開催ができていない。	市条例に定められた「2ヶ月に1回以上」の開催を目指し、会議では「状況の報告」に加え、「目標達成計画の評価」の実施を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム会議、市のサービスネットワーク会議に出席し、新しい情報の理解や他事業所とのネットワーク作りに努めています。介護保険調査会の会議メンバーとして活動しています。市で作成される学校教材のための見学を受け、グループホームの現状について説明を行いました。	法人代表が市の介護認定調査員として活動し、他では得難い知識や情報を取得している。市主導のグループホームのネットワークに市内の12ホームが参画しているが、特段の活動の実施には至っていない。	合同研修や交換研修等、ネットワークが機能することにより、職員の育成を始めホーム運営に益することは多い。他市町村の成功例に倣い、ネットワークを活性化させる取り組みを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や朝の申し送り、ショートカンファレンスにおいて話し合いを行っています。安易に外出制限をしてはいけない反面、危険回避も重要であり、現場の判断で外出の機会を設ける工夫をしています。	共用デイサービスの利用者がホーム外に出してしまうのを防ぐため、安全面の配慮から玄関を施錠している。しかし、ホールの南面に設けられた広い掃出し窓から芝生の中庭に出ることは可能であり、ホーム及び利用者閉塞感を感じられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文書研修を行い、分からないこと等、随時質問を受け、入社3ヶ月以内、入社3年目の職員には研修を行い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修、文書研修、全体会議等で学ぶ機会を持ち、活用されたい保証人様の相談にのったりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、保証人様の前で書類を読み、特に重要なことは書類に下線を引きながら詳しく説明し、その都度、不安や疑問点を尋ね、答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話等話しかけやすい雰囲気作り、言葉遣い等を心がけています。面会時の会話や電話、メールでご家族の希望を伺い、反映させています。	家族のホーム訪問は頻回にあり、信頼関係が構築されている。家族アンケートに回答した家族のほとんどが、自由記述欄に感謝の言葉を寄せている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ショートカンファレンス、申し送りノートを通じて現状の把握に努めています。提案や改善の必要性に応じて、当日、週単位、月単位で対応し、サービス内容の充実に努めています。	法人代表の「可能な限り永く勤めて欲しい」との思いを職員も理解しており、経営と現場とが協力して「働きやすい職場づくり」に取り組んでいる。別棟の休憩室の増設や、移動リフト2基の導入もその一環である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活状況を考慮し、勤務時間、休日に対応しています。定年制を廃止し、希望する人は健康である限り働き続けられる仕組みにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外での研修を積極的に行っています。文書研修、講師を招いての講演会、新聞記事等を活用し、新たな技術、知識の習得に努めています。市の会議には職員が交代で出席しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会、会議には積極的に参加し、人的ネットワーク作り、勉強の機会となるよう進めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に生活している場所に訪問し、ご本人やご家族、施設の方に思いを伺い、記録に残し、全職員が情報を入所前から共有し、安心して生活していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や契約時等にご家族様から直接お話を伺い、要望等、主治医や職員で情報共有、検討し、介護計画に取り入れて柔軟に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい雰囲気をつくり、五感を働かせながら、ご本人、ご家族から別々に思いを伺い、全職員で情報を共有し、介護計画に取り入れたりして対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中で、昔の知恵や生活を教えていただいたり、洗濯干し、たたみ、机拭き、食器拭き、お部屋掃除等、スタッフと一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、ご家族の思いを伺ったり、認知症の進行に応じたケアサービスの提供等について支援いただけるようお話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族よりご本人の好きだったこと、近くのスーパーについての情報や、お友達の写真を提供していただいたり、お孫さんに来ていただいたり、ご本人の家のそばまでドライブしたりして、思い出していただけるように努めています。ご家族様とふるさとへの旅行に今年度2回行かれました。	若い頃に銀行勤めだった利用者の許に、元同僚が面会にやってきました。電話で連絡を取り合ったりしている。家族(利用者の兄弟)の協力を得て、毎年郷里(郡上)への里帰りを果たしている利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールや庭の東屋のベンチに座り、利用者様の会話を聞いたり、トラブルになりそうな時は事前に察知できるよう努めています。大勢の中にあることで不安になられる場合は個室で過ごしていただき落ちつきを取り戻していただけるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後の様子について連絡をいただいたり、体調で心配なことを伺い、アドバイスをさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安な気持ちを理解した対応を心がけています。ここのスタッフの顔を見ると見覚えがあつて安心すると感じていただけるよう、寄り添う形で笑顔を忘れず接したいと思っています。	思いを把握した際には、ケース記録に記録している。「〇〇ちゃん(亡くなられた奥様)、××ちゃん(姉)と、何度も大声で叫ばれる」との記録に対処し、××ちゃんが来訪の際に写真を撮って居室に掲示した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からお話を伺ったり、ご本人に気持ちを伺ったりしています。なかなか言葉にならない方でも辛抱強く引き出すように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないが増えていく中で寂しさを感じておられると思いますので、触れ合うことで安心していただき、今残っている能力を大事に働きかけています。とにかく話しかけることの大切さを感じています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式、ひもときシート、検討会を活用したり、ご家族と担当者会議を行い、いろいろな方の意見やアイデアを取り入れ、作成しています。	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、センター方式やひもときシートを活用して介護計画を見直している。介護計画と現場支援の連動を図り、かつ職員の負担軽減のため、介護支援相談員は様々な工夫を凝らしている。	身体介護やADL主体の介護計画にとどまらず、個別ケアの原点である「利用者の思いや意向」の変化にも着目した介護計画の見直し・作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の様子や気づきなど、ケース記録、申し送りノート、健康ノート、口頭で情報を共有しています。業務の中での気づきは、その場でミニカンファレンスを行い、結果を記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の状況に可能な限り対応できるように、その場でカンファレンスを行ったり、ご家族に電話やメールで連絡し相談したりして、早く柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習慣、行事、思い出の品、家族、親しかった友、動物等、内外部の情報を集め、安心して生活していただけるように努めています。楽しみや喜びで笑顔が多く見られる計画や工夫をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診に加え、体調不良時には電話やファックスで相談しています。往診は随時お願ひしています。月3～4回歯科訪問診療を行っています。	ほとんどの利用者がホーム協力医をかかりつけ医として往診を受けている。協力医以外への通院や他科診療は家族対応であるが、法人代表が看護師資格を有しており、医療機関との情報の収受は万全である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝の申し送りやノートを通じて健康情報を伝えています。ホーム内の看護職は病院の看護師に相談し、適切に対応しています。爪切り、髭剃り、足浴等を介護職と相談しながら実施し、清潔ケアの徹底に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段と様子が違い体調変化のある時は電話報告し、往診を依頼、主治医の判断で救急病院へ行く時は、紹介状または直接搬送先の医師に電話での病状説明を行ってもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人、ご家族の意向を伺い、文書にしています。重度化や終末期には主治医、ご家族と事業所で話し合いを重ね、ケア方針を全職員に伝え、チームで支援を行っています。	協力医がホームでの看取りの実施に理解があり、これまでもホームでの看取りを経験している。利用開始時の家族との面談では、利用者全員について「ホームでの看取り希望」を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	少しでも利用者様の様子がおかしい場合は管理者に伝え、すぐに対処するようスタッフの間でも話し合いを常に持ち、大事に至らないよう気を配っています。外部の方を招いて座学会も実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月内容を変えて30分程、当日勤務者で避難訓練を実施しています。防災用品等の点検も、全員が把握できるよう、責任者を決めて実施中です。	防災訓練には、理解ある地域住民の参加がある。夜の10時頃に、実際に夜間の避難訓練を実施し、多くの課題を抽出した。屋外に防災倉庫を建て、ホーム内の廊下にはヘルメットや防災頭巾を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけていますが、利用者様同士のトラブル対応時は配慮の欠ける言動をしてしまうこともあり反省しています。	利用者の尊厳を保つため、その時の状況や環境に配慮した言葉遣いをしている。忙しさから語気が荒くなることもあるが、職員同士で注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム内、職員で行えることは可能な限り希望を叶え、具体的に選択できるよう対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体の不自由の違いや年齢などに配慮して、その方に合った無理のない暮らし方を心に置いて介助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きてご自分の席に座られたら、鏡、櫛、整髪料、化粧水等を用意して、ご自分でできる方にはしていただき、できない方にはスタッフがお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	パンケーキを作ったり、庭でとれた食材を使って料理したりしています。玉葱の皮むきのお手伝いをさせていただいたりもします。食器拭き、ふきんたたみは毎日利用者様にさせていただいています。	中庭やプランターに1,000球のチューリップが咲き乱れ、それが終わると夏野菜が実り、秋の収穫時期を迎える(予定である)。利用者が水やり、収穫を手伝い、それが調理されて食卓に並ぶ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、主食、副食は一人一人に合った量を提供しています。器やコップを替えたりして自力摂取しやすいよう介助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じて、歯科医からの指導に従い、薬を使用しています。毎晩、義歯はホームで保管し、日曜日に洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の生活の中で一人一人パターンの違う排泄に合わせた方法で、気持ちよく過ごせるよう支援を行っています。	オムツを使用している利用者はおらず、2基の移動リフトがフル稼働してトイレ(居室のポータブルトイレ)での排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に便秘になりやすい体調を考え、飲食、運動等で予防と対応を行っています。主治医に相談し、その方にあった薬を処方していただき、必要時は処方薬使用の介助を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午前入浴ですが、個々の希望に沿った入浴時間を設定し、会話、笑顔が見られるように、次回入浴を楽しみにできるように支援しています。	週に3回入浴が基本であるが、冬場は回数を減らして対応している。全員が起床と同時に陰部洗浄を受け、清潔な一日の始まりを迎えている。カレンダーに予定を書き込み、計画的に足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの体調に合わせて、午前、午後1時間程度休息を取っていただいています。月に1回以上はシーツを洗い、布団干しをしています。寒暖や光等の配慮もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量をスタッフ2人で確認し、安全な服薬介助を行っています。必要時、使用する薬等はスタッフ内で相談し、服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事、音楽療法、ドライブ、ボランティア等に参加して楽しんでいただけるように工夫しています。残在能力に応じた役割を担っていただき、生き甲斐、達成感を持っていただけるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出できるよう、ご家族にご協力いただいたり、ドライブを企画したり、車椅子の方でも日常的に戸外に出られるよう支援しています。お盆のお墓参り、ふるさとへの帰省など、日常会話からご本人の思いをお伝えしたところ、ご家族、親類の協力で実現しました。	利用者の重度化の進行に伴って、日常的な外出機会は減少傾向にはあるが、気候・天候に恵まれた日には可能な限り外気に触れる機会を作っている。ドライブで外出することも多く、家族の協力で定期的な里帰りが叶っている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持って使いたい希望の方には保管場所、領収書、出納記録をご本人と一緒に相談しながら支援しています。また、職員とのホームの買い物の際には支払いをお願いすることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望とご家族の都合とを調整しながら支援しています。ご本人の満足や安心が得られる方法を考えながら支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保てるよう、掃き掃除、拭き掃除を行っています。エアコン、窓の開閉、証明で快適な環境を整えます。季節の飾り、カレンダー、予定表等も整えます。	ホーム内は掃除が行き届いており、清潔感にあふれている。所どころに花や観葉植物、ドライフラワーが配され、訪れる者の心を癒してくれる。音楽療法のゆったりとした歌声が、「ゆっくり たのしく いっしょに」との理念を歌い上げているかのようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において快適に過ごしていただけるように、居場所を整えます。場所を移動する場合、車椅子、手引き歩行時は特に安全確保します。季節の良い時期には自ら庭のベンチに行き、のんびり過ごされます。車椅子の方はスタッフが押して庭を一周したりして、景色の良いところで過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には馴染みの家具を置き、ご家族の写真を貼っています。窓の外には季節ごとに楽しめるように鉢植えを飾っています。	各居室に収納スペースがあることもあり、整理・整頓が行き届いている。安易にオムツ対応にせず、トイレでの排泄を支援するため、居室にポータブルトイレを持ち込んでいる利用者が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では廊下、トイレ、各部屋に手すりを設置しています。分かりやすいようにトイレ、浴室の表示をし、各部屋には利用者様の住んでおられた地名を貼って明確にしてあります。		